

**製品名: GRK2 (リン酸化 Tyr86) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05752**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	75kDa

## 抗原情報

遺伝子名	ADRBK1 BARK BARK1 GRK2
別名	Beta-adrenergic receptor kinase 1 (Beta-ARK-1;EC 2.7.11.15;G-protein coupled receptor kinase 2)
遺伝子 ID	156.0
SwissProt ID	P25098
免疫原	ヒト GRK2 由来の合成ペプチド (リン酸化 Tyr86)

## 背景

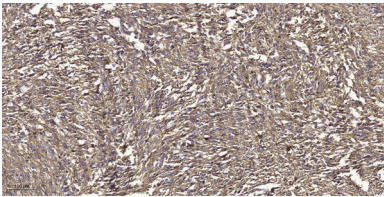
この遺伝子産物は  $\beta$ 2 アドレナリン受容体をリン酸化して、高濃度アゴニストで観察されるアゴニスト特異的な脱感作を媒介すると考

えられます。このタンパク質は、普遍的に細胞質に存在する酵素であり、 $\beta$  アドレナリン受容体および関連する G タンパク質共役受容体の活性型を特異的にリン酸化します。 $\beta$  アドレナリン受容体と G タンパク質の異常な共役は、心不全の病態形成に参与しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性:  $\text{ATP} + [\beta \text{ アドレナリン受容体}] = \text{ADP} + [\beta \text{ アドレナリン受容体}] \text{リン酸}$ 。触媒活性:  $\text{ATP} + \text{タンパク質} = \text{ADP} + \text{リンタンパク質}$ 。機能:  $\beta$  アドレナリン受容体および密接に関連した受容体のアゴニスト占有型を特異的にリン酸化して、おそらくそれらの脱感作を誘導します。、オンライン情報:  $\beta$  アドレナリン受容体キナーゼエントリ、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。GPRK サブファミリー。、類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: PH ドメインを 1 つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。、類似性: RGS ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: GIT1 と相互作用する (類似性による)。ケモカイン刺激を受けた CCR5 と相互作用し、リン酸化を行う。、組織特異性: 末梢血白血球に発現する。、

## 研究分野

ケモカイン;エンドサイトーシス;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト小腸癌組織の免疫組織化学分析。1.GRK2 (リン酸化 Tyr86) ウサギポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°Cで一晩)。2.クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗原賦活化 (>98°C、20 分)。3.二次抗体を 1:200 に希釈した。